グリーン四国

四国森林管理局

四国山の日

高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ088－821－2052
ＦＡＸ088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1112 2012年１１月号

「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」

～高知県室戸市と保存協定調印式～

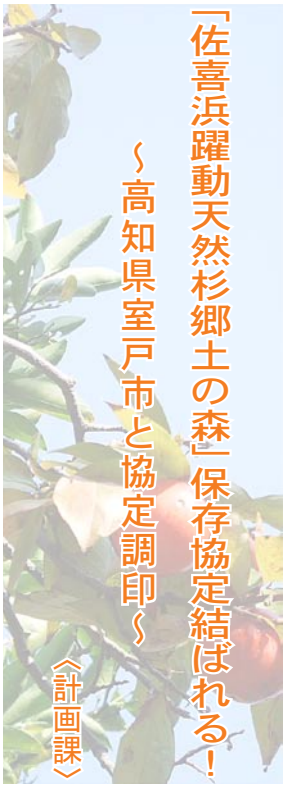
10月30日に、室戸市長と「郷土の森」設定の保存協定を調印しました。

（詳細は２頁）

調印式（左側：新木局長、右側：小松室戸市長）

段ノ谷山天然杉「大杉」

段ノ谷山天然杉「ハロー杉」



「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」保存協定結ばれる！

～高知県室戸市と協定調印～

《計画課》

一〇月三〇日四国森林管理局において安芸森林管理署管内の段ノ谷山国有林について、室戸市長と「郷土の森」設定のための保存協定の調印式を行いました。

調印式には、室戸市から小松市長はじめ四名の方々が、四国森林管理局からは新木局長等五名が出席しました。

初めに、新木局長より、『昨年九月に室戸市が世界ジオパークの認定を受けられたことは、本当に喜ばしいニュースでした。心からお祝い申し上げます。「郷土の森」につきましては、地域のシンボル、誇りとして皆様に大切に思って頂いている国有林を、今後とも森林としての現状を維持するとともに、地域おこしにも役立てて頂くという趣旨で設定して来ています。今後は、ジオパークを核として室戸市の益々の発展が図られることと存じますが、今回の「郷土の森」の設定が室戸市のムーブメントに貢献できることになれば大変素晴らしいことであるとともに、ネーミングについては、市民の皆様からの公募により「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」と名づけられましたが、ワクワクするような名称で情報発信にもなるのではと期待しています。』との挨拶がありました。

段ノ谷山天然杉「大杉」

一方、小松室戸市長からは、『平成二三年度に室戸市全体が世界ジオパークとして認定された中でも、このエリアは「大地と生態系と人とのつながりが見られる場所」という見どころとして指定している場所で、観光客だけでなく、地元住民からもこの周辺の自然資源や文化・歴史は「郷土の宝」として親しまれております。今後も段ノ谷山エリアを地域住民等と一丸となって「郷土の宝」として適切に保護・管理しながら、学校教育やレクリエーションの場等として活用するとともに、地域の活性化と振興のために尽力することをお誓い申し上げます。』との力強いご挨拶がありました。

今回の郷土の森、段ノ谷山国有林の特色としては、参勤交代で使用されていた野根山街道につながり、標高六七五～九〇〇m付近に、樹齢四〇〇年を超える天然杉の巨樹・巨木が群生し、魚梁瀬スギの千本山国有林とは一味違った自然を楽しむことができます。

この天然杉の巨樹・巨木群の中には、特徴的な形態を示す天然杉が三三本確認されており、それぞれにハロー杉、江戸杉、ゾウ杉、たこ八杉などのユニークな名前が付けられ、その中には幹周りが一二mを超えるものもあり、これらの巨木奇樹は登山道沿いで間近に見ることができます。

今回の協定で四国森林管理局管内で七か所目の設定になりますが、今後も、こ

段ノ谷山天然杉「双子二代杉」

の様な特色ある森林を、森林レクリエーション、森林環境教育の場等として活用することにより、地域振興への寄与となるよう森林の適切な保全・管理に努めていきます。

「第二回国有林モニター勉強会」を開催

《企画調整室》

平成二四年一一月一日、高知県吾川郡いの町にある嶺北森林管理署管内の国有林において、平成二四年度第二回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は曇りで、少し冷え込みましたが、四国四県から国有林モニターの方、一四名が参加されました。

開会にあたり新木四国森林管理局長から「実際に森林の状況を見て感じていただき、国有林の取組について理解を深めていただきたい。」との挨拶がありました。

初めは、早明浦治山事業所が実施している民有林の地すべり対策事業施工地において、国が直轄事業で行っている地すべり対策工事について、施設の概要や必要性、公共土木工事における木材利用の取組等の説明を行い、アンカー工や集水井の状況を見学しました。

治山事業の説明

次に、愛媛県との県境に位置する瓶ヶ森自然休養林を見学しました。標高が高いため、小雪が降る中での見学となりましたが、ウラジロモミ等に樹氷を見ることができました。

小雪混じりの瓶ヶ森

その後、寒風山周辺の上瀬戸山国有林にある吉野川上流域の天然林を見学しました。実際に林内に入り、四国の植生の垂直分布や現地の概況、四国森林管理局の保護林や緑の回廊の取組等について説明を行いました。

今回の勉強会に参加されたモニターの方々は、吉野川源流域の森林保全の取組、自然休養林等国有林のレクリエーションとしての活用、天然林等の管理について、直接目にし、説明に熱心に聞き入っていました。また、活発に質問や意見を述べられて、理解を深めました。

天然林の観察

「四国山の日inこうち」開催

《指導普及課》

一〇月一三日、一四日の両日、高知県高知市と嶺北地域を中心に、四国の森づくり実行委員会、四国山の日inこうち実行委員会主催による、「２０１２四国山の日inこうち」が「持続可能な山の暮らしを支える四

国の森づくり」をテーマに開催されました。

今年で九回目の開催となるこのイベントは、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、森林整備、木材利用や、森林環境教育活動を地域住民や森林ボランティア、関係機関等と連携・協力して取り組むこととして、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施されています。

四国山の日受賞者の皆様

初日は、四国森林管理局大会議室において「四国山の日賞」の表彰式を行い、続いて、今年度四国山の日賞を受賞した全ての団体が日頃の森づくりなどの取り組みを報告しました。

基調講演では、高知からグローバルに幅広く活躍されているデザイナー梅原真氏が、「森林をタノシクするプロジェクト84プロジェクトを語る」と題して、「マイナスを（個性）プラスと見る」発想を伝授。

はちよん談義

続いて高知県内で活躍する森づくり活動家と梅原氏とが、これからの四国の森づくりに何が必要かについてのフリートークを行い一日目は終了しました。

二日目は、高知県の嶺北地域の、「自伐林家視察コース」の自然との共生、「森の工場視察コース」のH型集材、「甫喜ヶ峰フェスティバルコース」の森の恵満載の、三分科会に分かれ視察しました。

二日間とも天候に恵まれ、施設の見学や参加者間の交流を深め、二日間を終えることが出来ました。

また、一日目の宵には、四国四県からの参加者が、「土佐のおきゃく」で、森の話で盛り上がりました。

来年は、徳島県で開催予定です。今後、四国の森づくりにおいても、マイナスをプラスに捉えた取り組みを実践していきましょう。

二日目　分科会

源流サミット開催

《指導普及課》

第三回全国源流サミットが、四万十川の源流点がある高知県津野町で一〇月一九日から三日間開催されました。二日目の全体サミットでは、特別講演として、沼田林野庁長官が「森林・林業の再生と山村振興の展開」と題して森林・林業の現状と課題について講演されサミットに華を添えました。

沼田林野庁長官の講演

続いて、渓流に配慮した「近自然河川工法」に関する講演や、「源流域の価値や課題」について行政、研究機関、源流域で活動する方々のパネルディスカッションが行われました。

サミットには、日本各地の源流点を有する自治体の関係者や、大河の源に関心を持つ人々約六〇〇人が集うなど、賑わい、また、会場の外では、全国源流物産展等でその賑わいを盛り上げていました。

また、源流地点（不入山国有林）に向かうと、周辺は、少し木々の葉も色づき、秋らしい爽やかな日和で空気も水も風もおいしく感じました。

源流が国土形成の源であることを考えますと、国有林はまさしく源流地域であります。源流域が元気でいられるように、より一層健全な森林づくりに励まなければと感じました。

最終日は、源流地点散策、セラピーコース散策、近自然河川工法研修の三コースに分かれ津野町を満喫し三日間の催しを終えました。

なお、次回は群馬県みなかみ町で開催されることとなっています。

協議会旗の引継ぎ

各地のたより

津田山をフィールドに森林教室

〈徳島森林管理署〉

一〇月二四日、徳島市立津田中学校で、総合学習の「環境」を選択している中学二年生（三一名）を対象とした森林教室を行いました。

当署では、公募により前期と後期に分け森林教室を実施していますが、今回の森林教室は後期分六回のうちの第一回目で、津田中学校から「市内に住んでいる生徒たちは自然にふれあう機会が少なく森林に対する関心が薄いので、総合学習の時間を利用し、学校裏にある津田山をフィールドとした自然環境にふれあえる森林教室をお願いしたい。」という内容で依頼を受けて実施したものです。

樹木の説明の様子

初めに、森林の働きの一つである水源涵養機能について学習をしました。森林は「緑のダム」と言われ、川に流れ込む水の量を調節し洪水や渇水を防ぐなど、私たちの生活にとても大切な役割を果たしていることを説明しました。生徒たちはメモをとり、積極的に発言するなど真剣に学習していました。

次に、津田山へ移動し自然観察を行いました。現地には、ムクノキやシロダモ、ウバメガシ、シュロなどの樹木があり、樹木の特性を活かした活用方法の説明、また、葉の匂い、樹皮の手触りなど、五感を使って感じるように指導しました。質問時間には「木の種類をどうやって見分けているのですか？」などの質問もあり、身近な自然を前に興味津々の様子でした。

自然観察終了後には津田山のゴミ拾いを行い、自然環境に対する意識を深めて帰校しました。

当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。

民有林林道の検討会を開催

〈徳島森林管理署〉

一〇月二六日、徳島県那賀町木頭で民有林林道岩倉・蝉谷線の整備に関する現地検討会を開催しました。この林道は、元々は、東蝉谷国有林を貫通し、木頭側の蝉谷と木沢側の岩倉を結ぶ峰越し林道として計画され、昭和六二年に着工されましたが、その後の状況の変化に伴い、今後の整備計画について検討会を開催したものです。

当日は、県及び県民局、那賀町、四国森林管理局計画課及び森林整備課、当署の合わせて一六名が参加し、国有林が所在する蝉谷側の現地踏査と検討を行いました。

まず、周辺の森林が一望できる箇所から、国有林の概況説明と林道の整備状況の説明を行いました。その後、開設工事中の蝉谷工区の終点から、予定線形をたどりながら国有林に到達し、国有林の人工林の中を抜けて、東蝉谷上流まで林内を歩きました。

民有林林道　現地調査

その結果、対岸の天然林まで延長しなくとも国有林の森林整備は十分に行えること、対岸の天然林は、絶滅が危惧されているツキノワグマ活動域の東端に位置すること、徳島県下では南限に近いブナ林であることなどから、これ以上の林道の延長は必要ないとの結論に達しました。

この林道は、計画時点から国有林と民有林が協力してきたものですが、時代の要請や状況の変化に即応して計画を柔軟に見直すこととなったものです。当署の国有林は、小規模分散的な箇所が多いのですが、路網が整備されれば、民国の森林共同施業団地も視野に入ってきます。

当署としては、今後とも森林管理局の指導を仰ぎながら、今回のような林道計画への積極的な関与を含め、民国連携の促進や民有林への貢献ができるように取り組む考えです。

オオヤマレンゲ群生地にシカ除けネットを設置

〈徳島森林管理署〉

一〇月二九日、石立分岐北面（三嶺国有林三六イ林小班）のオオヤマレンゲ群生地で、三好市教育委員会とNPO法人剣山クラブの協力をいただいて、シカ除けネットの設置を行いました。

現地には、「天女の花」と呼ばれる可憐な花を付けるオオヤマレンゲ（絶滅危惧Ⅱ類）の群生地があり、NPO法人剣山クラブの要請を受けた三好市教育委員会は、これを文化財（天然記念物）に指定する準備を進めています。

しかし、ここでもニホンジカの食害が激しくなっており、オオヤマレンゲの個体約一〇〇本は樹木ガードを巻き付けて保護していますが、オオヤマレンゲ周辺の樹木の枯損が進んでいるので、ニホンジカの食害から群生地全体の生態系を保護するため、シカ除けネットを設置することとしました。

当日は、三好市から一四名、剣山クラブから一〇名、当署から六名が参加して、登山口から二時間以上の歩

行時間を要する現地に向かいました。資材は夏のうちに現地に空輸してあったので、一〇時に現地に到着すると、当署から作業手順の説明を行い、グループに分かれて設置作業に取りかかりました。

あいにく当日は、強い北風の中での作業となりましたが、一四時までに、オオヤマレンゲ群生地の上方及び側面に六五〇mのシカ除けネットを設置することができました。これで、文化財候補のオオヤマレンゲについては、群生地全体を保護する対策が講じられたことになります。

しかし、この付近はニホンジカによる被害が最も深刻な地域であり、ミヤマクマザサやウラジロモミなどの樹木は枯れ果て、ニホンジカが食べないヤマヌカボやコケがまばらに生えるばかりの荒廃地に移行しつつあります。絶滅危惧種ですら、拠点的にしか保護できないような深刻な状況ですが、参加者からは「心に大きな財産ができたような作業だった。」「今後も協力したい。」「巡視活動が楽しみ。」「開花時期に再び訪れたい。」などという前向きのコメントをいただきました。

オオヤマレンゲ群生地
シカ除けネット設置

三好市による文化財の指定は年内にも行われる見込みですが、当署としては、今後とも「国民の森林」として地元自治体やNPOなどと連携した取組を進めたいと考えています。

三嶺中腹でシカ食害対策を実施

〈徳島森林管理署〉

一一月三日、三嶺（みうね）中腹の通称「ダケモミの丘」下部の国有林（三嶺国有林二八林班）で、ボランティアの協力をいただき、ニホンジカの食害を防ぐための樹木ガードを設置しました。

活動の中心となったのはNPO法人「三嶺の自然を守る会」（暮石理事長）ですが、今回は徳島県自然環境室「生物多様性とくしま会議」の協賛をいただき、当署職員以外に四三名という多数の参加がありました。

三嶺中腹での樹木ガード設置

「ダケモミの丘」は三嶺南側の支稜で、ウラジロモミ（ダケモミ）の純林があり登山者に親しまれていますが、ウラジロモミの樹皮をニホンジカが選択的に食害するため、暮石理事長のアドバイスを受け、平成二一年度からシカ除けネットを設置してきました。また、「ダケモミの丘」上部は、徳島県が三嶺山頂側から、当署が下側から、請負やボランティアとの協働によってシカ食害対策を実施してきたため、登山道周辺の樹木は保護されることになります。しかし、「ダケモミの丘」周辺には、シカ除けネットでは囲いきれないウラジロモミがあるため、継続して保護対策が必要です。

当日は、全山紅葉の快晴に恵まれ、九時過ぎに登山口の名頃駐車場で開会式を行い、約一時間半をかけて「ダケモミの丘」まで登りました。資材はあらかじめ当署の職員が現地に担ぎ上げていたので、お昼を挟んで三人一組で、樹木ガードの設置を行いました。その結果、

短時間の作業ではありましたが、二百九十一本の樹木に樹木ガードを取り付けることができました。

名頃駐車場に下山してからの反省会では、今回は「生物多様性とくしま会議」の呼びかけに応じた初めての参加者が多かったのですが、「ニホンジカの食害の深刻さや保護対策の重要性がわかった。」「機会があればまた参加したい。」という多くの意見をいただきました。また、「樹木ガードの耐用年数が過ぎたらどうするの。」という当方の課題となる意見もいただきました。

圧倒的に個体数が多いニホンジカの前では、こうした対策は拠点的、限定的にならざるを得ませんが、地方自治体やＮＰＯなどと連携をしながら、良好な自然環境や稀少な樹木を保護し生物多様性を維持するため、当署としては今後ともニホンジカ食害対策を前進させたいと考えています。

佐田山保護林で森林体験教室

〈四万十森林管理署〉

一〇月二九日、土佐清水市足摺半島にある佐田山国有林において、第二回の中浜小学校の「山の学校　森林体験教室」を開催しました。

中浜小学校児童にとってのふるさとの山である佐田山（白皇山）は、スダジイを中心とする常緑樹の天然林であり、遺伝子保護林にも指定されている森でもあります。

古くから修験道の霊山として、また三八番札所金剛福寺の奥の院として白皇寺が建てられていた歴史ある信仰の山でもあります

当日は雲ひとつない快晴の天候に恵まれ、一年生から六年生までの全校児童二九名と先生六名が参加しました。署からは七名が参加し、登山のサポートをおこないました。

森林散策の様子

今回は、佐田山山頂をめざした森林散策をおこなうことにより、自然と共感できる糸口を見つけることを目標にしました。

児童たちは落ち葉をさくさくと踏み、アカガシのドングリでポケットをいっぱいにしながら、小さな一年生もがんばって楽しく登りました。

ちょうど佐田山に自生する天然記念物のヤッコソウの開花時期で愛らしい姿を見せてくれたことから、みんな大喜びで観察していました。

また、山頂の岩場からは地球の丸さを体感できる水平線や黒潮の流れなど、雄大な景色を眺めることができて児童は、大歓声を上げていました。

登山口に無事全員が戻ってから、児童より「自然にふれられてよかった」「天然記念物のヤッコソウが見られてよかった」「また来てみたい」など自発的に多くの感想がありました。

半日間という短い時間でしたが、地元の自然にふれた感受性豊かな子ども達が、故郷の大自然をいつまでも大切にしてもらいたいと思いました。

ヤッコソウ